



森のなかま

2011年 5月号

NO. 37 (継続182)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 島岡 功

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102

「平成22年度かながわ地球環境賞」を受賞！！

私たちの会は、この度、「平成22年度かながわ地球環境賞」を受賞したことを、ご報告いたします。かながわ森林インストラクターの会としては、平成9年（1997）に1回目を受賞し、NPO化後を含め、2回の受賞となります。

「かながわ地球環境賞」は、地球温暖化防止活動の推進にも連動し、神奈川県から全国・世界に向けて、地球環境保全活動の推進を発信することと、理解しています。会員の皆様が会を中心に、平成4年から今まで、長期間にわたり、地道な森林づくり普及啓発活動等とおして、地球環境保全に寄与してきたことを、神奈川県から評価された、大変喜ばしい受賞です。会員の皆さまには、心から感謝を申し上げます。尚、この度の受賞は、個人を含め38団体です。

平成22年度 『かながわ地球環境賞』受賞者（五十音順）

【かながわ地球環境賞】

団体等名称	取組内容
海をつくる会	スクーバダイビングを趣味とする会員で構成され、海底や湖底の清掃、アマモ（海草）の移植、干潟観察会等を実施している。海底等の清掃は、毎年、山下公園前や芦ノ湖等で実施し、平成22年10月までに、山下公園前は30回目、芦ノ湖の湖底清掃は12回目となった。また、平成12年度から野島海岸で開始したアマモの移植は、子安浜や横須賀防衛大学内海洋施設等へと拡
特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会	健全な森林の育成とその利用のあり方を創造することにより、すべての市民及び社会が森林の持つさまざまな効用を享受できる場の発展に寄与するため、財団法人かながわトラスト財団主催の「県民参加の森林づくり」事業で森林施業の指導を行うほか、市町村・学校・企業・団体等の要請に応じ、インストラクターを派遣し、イベントや講習等の支援を行っている。



記念品：気象計

第3弾 ＊ やどりき水源林は魅力がいっぱい！！

やどりき森の案内人 土壌生物班 土の中の虫たちを調べる

落ち葉の中、その下の土の中にはいろいろな虫が活躍しています。

土の中の世界も植物が生産者で、それを食べる消費者、さらにそれを捕食する二次消費者、排出物・遺骸を分解する分解者がいて食物連鎖が成り立っている。

人の影響が少ない環境にしか棲めないもの、人の関与が大きく自然度が低い環境でも生活できるものなど、土の中の虫を調べるによりその土地の自然度を知ることができます。健全な土の構成は三分の一は固形分（土）、三分の一は隙間（空気）、残りは水です。

桜の名木・古木の周囲に棚があるのは人の踏圧によって隙間がなくなり根が酸欠になるのを防ぐためです。土の中の生物はこの隙間や落ち葉の間で生活しています。その結果、体は・小さい・細長い・手足が短い・目が退化、などの特徴を持っています。

気持ち悪いのかもしれませんが、中には鮮やかな色・模様を持った目を見張るような虫を見つかることもあります。毎年大量に発生する落ち葉は、これらの虫たちの働きによって長い時間かけて分解され隙間をたくさん持った土になります。この土は雨水を蓄えることができる水源涵養林の主役になります。

私たち土壌生物班は年に数回（夏・秋）やどりきに集まり土の中の虫を調べています。調べ方は肉眼で見える虫を採集しルーペで観察するいわゆるハンドソーティング法です。

- ① 方形枠をつくり約 10ℓ くらいの土・落ち葉・枯れ枝を採集する。
 - ② 採集した土をシート上に広げ虫が動き出すのを待って捕まえる。すべてを忘れて熱中できる時です。
 - ③ ルーペで観察し検索図表、図鑑をみて同定する。
- 今までに見つけた虫は 26 種類で分類単位では目レベルの同定が主体です。

土壌生物調査は歴史も浅くよくわからないところが多く残っている分野です。班活動も未熟な点が多いのですが一度定例の調査に参加してみませんか？ 自然観察会などで待ち時間が出来た時に、落ち葉をめくって虫を探しその働きを解説するなど活用ができ、インストラクターとしてパトリーが広がります。

土壌・水生生物班 班長 須長 勲



調査作業中です。



マダニ（7 mm）動物の血を吸う



マルトビムシ（2 mm）植物食



アカケダニ（3 mm）小動物食

やどりきに沢のさやぎて山笑ふ

やどりき森の案内人

水生生物班

清流の中の生き物を観察しよう

土壌・水生生物班 副班長 宮本 聡



やどりき沢の水が温み、水の中の生きものの観察に良い時節がやってきました。

近年、水源林づくりパートナーの企業・団体から水源林活動の一環として水生生物採集・観察のインストラクションの依頼も多くなりました。また、昨年度からは夏季に限って案内人活動として来訪者の方々に採集・観察を楽しんでいただいております。

水生生物の採集や観察は主に集会棟前広場近辺の沢（地図のC地点）で行っているのですが、採集・観察されるグループが多人数に過ぎる場合とか、他のグループと重複するという問題が生じてきました。そこで土・水生生物調査班の活動の一つとして、来訪者をご案内するのに適当な新しい場所を選定することにしました。その結果として、地図に示したA地点：「寄沢・水棚沢合流点付近」

およびB地点：「後沢・林道コース交差点付近」もC地点に加えて推奨できると思いますので、その概要を説明致します。

「寄沢・水棚沢合流点付近」：地図A地点

20、21年度成長の森への登り口で沢が合流し、この付近の沢岸はかなり大きな広場になっています。この沢ではカジカ、ヤマメなど魚類は見つかっていないものの、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、ガガンボのなかまなどの水生昆虫のほか、プラナリア、サワガニ、カジカガエルなど多様な生きものを採集・観察出来ることがわかりました。広場からは人工林、広葉樹の天然林の森林が展望できる素晴らしいビュースポットでもあります。

林道コースの自然観察とのセットで、清流に棲む生きものの採集・観察を楽しんでいただけたと思います。トイレが遠いことが欠点ですが、炎天時には木陰もあり昼食にも適しています。

「後沢林道コースを挟む上流および下流」：地図B地点

林道コースと交差する後沢の遊歩道上流側と下流側の沢です。上流側については班活動の定点として過去数年に亘って調査してきましたが、カジカ、ヤマメの魚類の他、カゲロウ、カワゲラ、トビケラ、ヘビトンボ、トンボのなかまなどの水生昆虫のほか、プラナリア、サワガニ、カジカガエルなど多様な生きものが採集された実績があります。また、下流側についても同様ですが、とくにトンボ類（ミヤマカワトンボ、ミルンヤンマの幼虫）の採集・観察が期待できる場所だと思います。川幅が狭く水深が浅いので採集・観察には危険性の少ない、低学年の子供向きの場所としてお奨めできます。



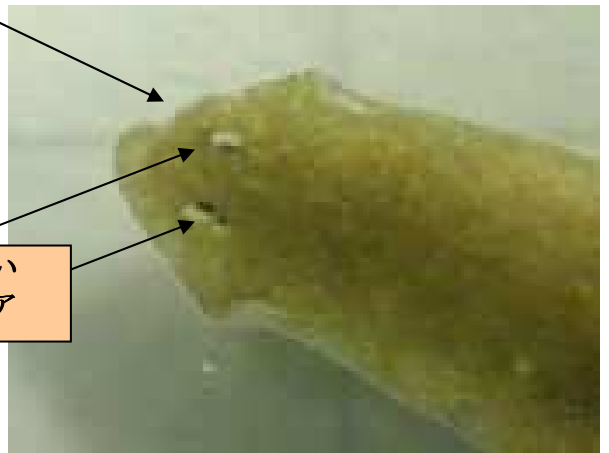
「集会棟前広場付近の寄沢のトピックス」：地図C地点

昨年8月、集会棟広場前付近のパートナーの活動で、サワガニ独特のお腹に沢山の稚ガニを抱えた親ガニを発見して感動した場面もありました。

近年、**カジカ（魚）**が多く採集されるようになり、ヤマメも時折見かけるようになりました。

「水源林の集い」では清流に棲む代表的な生きもの“**プラナリア（別名：ウズムシ）**”を顕微鏡で覗くと可愛い眼をしていて、来訪者に大変人気がありました。

沢の清流の瀬音やカジカガエルの鳴き声を耳にし、若葉が萌える水源の森林を眺め、恐竜時代以前から生きながらえてきた水生昆虫に思いをはせながら、沢の中に棲む生きものを探るのは、大いに心身の癒しとリフレッシュにもなり大いに楽しんでいただけるものと確信しております。



腫が可愛い
プラナリア



カジカ

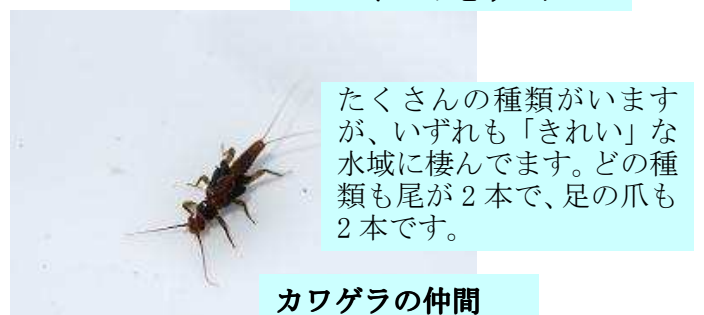
カジカが棲んでる環境は「きれい」な水域です。



ヘビトンボとサワガニ



サナエトンボの仲間



たくさんの種類がいますが、いずれも「きれい」な水域に棲んでいます。どの種類も尾が2本で、足の爪も2本です。

カワゲラの仲間

註：地図はやどりき水源林ニュース第9号（2004年2月発行）を引用

私の認識

野鳥その88

高橋 恒通

ツル目ツル科の野鳥の5番手は冬鳥のクロヅル（漢和名：黒鶴、英名：Common Crane、体長L=114cm、特別天然記念物＊）です。

♂♀同色、成鳥は目先が黒色、頭頂から後頸、喉下までが黒色です。

目の後方に白色の部分が後頸まで続き、これが大きなポイントです。これ以外の体全体が褐色味のある灰色ですが、飛翔時には風切羽が黒色で他の部分とのコントラストがハッキリと判ります。また額と頭頂との間に赤色の露出した皮膚があり、その大きさに個体差があります。

我国での棲息環境や行動様式はナベヅルやマナヅルとほぼ同じですが、何しろ毎年出水平野に飛来する彼等に混じってクロヅルは1～数羽が渡来してくるそうです。クロヅルの世界地図上での棲息領域は、温帯から亜寒帯の幅でロシアからスカンジナビア半島に至るユーラシア大陸を貫く広大な地域が繁殖地です。



そして越冬地は中国南部、タイ、インドネシア、インド、アフリカ中部そして北アフリカとこれまた広大な地域に分散点しています。

従ってクロヅルは“ツル科の野鳥は斜陽の生き物群”などと言われている中であって唯一分布領域が広く、個体数の多さでも群を抜いている野鳥だと私は認識しております。

私の勝手な想像から言えばクロヅルはツル科の中では絶滅危惧種に認定される最後の種となるのでは……

本題に戻りますが、クロヅルの行動様式を注意深く観ますと、繁殖地と越冬地の位置関係は地球上を南北に往き来が主流なのに極東の我国、出水平野は東南の位置に当たります。

故にナベヅル等に紛れてやって来るのは個体数の多いクロヅルの中でも希な異端の少数派に属しているのかも分かりません。

更に極め付きは、異端で少数派のクロヅルの雄とナベヅルの雌が番（つがい）となって、交雑した子供を連れて1970年頃に飛来し、当時の鳥好きの間で話題になったそうです。

この交雑した鳥を“ナベクロヅル”と誰かが命名しました。その個体の体色はナベヅルより白味が強く、頸にクロヅルの模様が不鮮明に出ていたそうです。

更に驚く勿れ、このナベクロヅルの雄とナベヅルの雌との番も数組が出水平野で確認されたと言う事実には私は深い関心があります。

この事実を“進化の過程”と見るべきか、それとも異端の少数派のみに限定された特殊な現象なのか判別がつかないからです。“交雑”と言うキーワードから、植物ではスミレ科、動物なら哺乳類でイノシシとブタのイノブタ、鳥類でマガモとアヒルのアイガモ等と単純思考の私にも即座に思いつくのですが、大形野鳥同士の交雑と言うのは正直に言って驚き以外の何者でもありません。

造化の神は人間だけが、どんな人種同士でも自由無制限に交雑が出来て、その遺伝子を残し種を繋ぐ事を許可してくれてますけれど、私達以外の生物界では一定の制約が存在しているものと私は認識しております。

若しそうでなかったらイヌ科のタヌキとキツネの交雑で“タヌキツネ”爬虫類でシマヘビとマムシの交雑で“シマムシ”と言う蛇が生まれるかも知れないからです。

＊飛来地での特別天然記念物です。（85）でご案内のナベヅルも同じ飛来地での特別天然記念物です。

<参考資料>

- ◎ 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄
山と溪谷社
- ◎ 日本の野鳥、山溪カラー名鑑、
編 高野伸二/解説 浜口哲一/森岡照明、
叶内拓哉/蒲谷鶴彦、山と溪谷社・
- ◎ イラスト ～ 春 ～

本の紹介

堤 洋 <8期>

ちょっと前の日本の暮らし

中川 誼美 著

題名の「ちょっと前の日本の暮らし」とは漫画や映画の「三丁目の夕日」を思い起こさせますが、まさにその生活を実践している旅館を経営しておられる方がまとめられた本です。著者は「ほんのちょっと前に日本に当たり前にあったさまざまな光景をもう一度見直して、『今』の暮らしの中に取り入れる。



それによって、温かい暮らしを取り戻したい。・・・そうしなければ子供たちに心の故郷を残してあげられない」との気持ちから編まれたということです

全5章から構成されており、第一章「ちよっと前の暮らし」とは、第二章 宿屋から発信する「ちよっと前の日本の暮らし」、第三章 都会で体験できる「ちよっと前の暮らし」、第四章「ちよっと前の暮らし」が体験できる宿の誕生、第五章 これからの日本の暮らし～発展より充実を～、前後に「はじめに」と「おわりに」となっております

経営されている宿は三ヶ所、京都円山公園の中、東京銀座三丁目、京都府綾部市にあり、いずれも和風旅館で、とにかく簡素で自然素材の食事や天然素材に拘った造作、家具を使っており、部屋にはテレビやクーラー等も置かれていない。**とにかくシンプル**だそうです。私は小学校低学年頃の生活を思い起こしています。

この本を読み進むうちに、現代の生活の中で忘れてしまっている季節感や手造りの味、旬の味、汗水垂らして体を動かした後の爽快感、家族の団欒等を思い出し、その時代を懐かしむだけではなく、今の自分の生活の中にも参考にすべきことが多いように思えます

残念ながら、ここに書かれている生活を実践する自信はありませんし、又、その環境にないと言い訳がましく思っております

綾部の旅館では、囲炉裏端での食事や竈炊きのご飯、薪で沸かすお風呂、満天の星空等、若かりし頃を思い出させる設えになっているということで折あれば出かけたいと考えております

(中公新書ラクレ 740円+税)



イメージ

本の紹介

村井正孝<9期>



笑いの処方箋

中島 英雄 著

著者は“中央群馬脳神経外科病院院長”列記としたお医者様でこれまた列記とした噺家“桂前治”である。

はじめにから抜糸ならぬ(つい駄洒落を言って仕舞いました murai) 抜粋してみます。

“病院と言うところは、人間の「生き死に」が常に同時に存在する厳粛な場所です。

厳粛とは「おごそかで心が引き締まるさま」「きびしく慎むこと」などの意味があります。そういったなかで、笑いをテーマにするなど不謹慎かもしれませんが、人間は四六時中緊張した気分ではられません。

笑える要素があるのに、笑っていけないと言われて笑いを噛み殺している時の苦しさは、誰にでも経験があると思いますが、だからこそ、圧縮から解放への糸口として、笑いが介在してくるのではないのでしょうか。このように、厳粛なはずの病院には、笑いのネタがゴロゴロしています。真剣なやりとりでも、後から思い返すと吹き出しそうな笑いもあります。そのほとんどがブラック・ユーモアですが、TPOがピッタリ合うと大爆笑になり、知的な笑いを引き起こすこともできます。

・・・なぜ私が医者と噺家の両方をやっているか、そのわけは最後までお読みいただければご理解いただけると思いますが、この本では様々な笑いを、創作を含めて私の日常から処方しようというものです。・・・そして読後、脳の血行状態が良くなれば、さらなる喜びです“と結んでいます。第一章「病院はお笑いネタの宝庫です」では●患者編とスタッフ編 第二章「笑いで脳をマッサージ」第三章「リストラ時代の处世術」第四章『笑う者、汝の名は女なり』第五章「噺家もできる脳外科医誕生物語」付録も入れて203ページにぎっしりの小噺。＜笑いのおちは読んでのお楽しみ＞買う前からネタもオチも分かったら面白くないでしょう。お後がよろしいようで・・・。

(株式会社 法研 1200円+税)

パートナー・会員外の皆様
参加大歓迎です！お友達
お家族、みなさま
お誘い合わせてどうぞ。

森林探訪 森林インストラクターと歩く 新緑の矢倉岳 (健脚向き)

*定員 100 人・多数の場合
は抽選になります。

5月22日(日) 雨天決行です。



矢倉岳山頂からの富士山

矢倉岳の名は足柄道を往来する旅人を見張る櫓のような形から名付けられたという。山頂は丸い草山で展望が素晴らしい。鷹の渡りを観察する山としても有名です。

コース：新松田―バス―矢倉沢―矢倉岳―地藏堂バス停解散
参考地図：2万5千分の1 関本・昭文社（箱根・金時）
参加費：500 円（資料・保険代）バスは個人負担、

集合：小田急線・新松田駅（山側） 集合時間：午前8時半
解散：地藏堂バス停 15時半予定。
持ち物：雨具（上下合羽・傘）、お弁当、飲み物、
軽登山靴（登山に適した靴）あればルーペ、
申し込み締め切り：5月16日まで

応募の方は、往復ハガキに「矢倉岳森林探訪」と明記し
参加者全員の住所・氏名・年齢・電話 を記載して
〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館
NPO法人 かながわ森林インストラクターの会
お問い合わせ；鳥飼 一俊（とりかい）042-744-8774

活動短信

林道てくてく

日 2月22日(火) 晴れ 9時～15時
場 湯河原町・白銀林道 参 一般県民 24名
スタッフ 神奈川県森林協会 茂木、浅野目、
協会関係者、村上、水野、中野、
インストラクター 野田⑧、
イ L女川⑨、内野⑨、海野⑩、杉崎⑩、鳥飼⑪



毎年協会が行っている「林道ウォーク」の申し込み落選者を対象に行われている「林道てくてく」白銀林道は今年で3回目。一昨年は降雨、昨年は降雪の翌日であったが、今年は温かな春の日差しに恵まれた。「しとどのいわや」でバスを降り、白銀林道から幕山梅林まで下りながら、林道・治山・林道周辺の森林の様子、春を待つ自然の様子などを解説しながら歩く。各班の編成も少人数で和気あいあいと会話を楽しみながら歩くことができた。

その中からエピソードを1つ。下見で見つけたウスタビガの繭「ヤマカマス」の話をしていたら、野田さんが高い枝から取ってくれた。綺麗な色をした宝物のようで皆興味津々。どなたに差し上げようかと迷ったが、絵手紙を始めたと言う女性に「私に絵手紙下さいね。」とプレゼントした。3日後、絵手紙が届いた。嬉しかった。

(記 9期 内野)

やどりき水源林
ミニガイド

4月のトピックス



足元には、タチツ
ボスミレが咲き
乱れました。

頭上には可愛い
クロモジの花が
咲き出しました。



5月の水源林



水源林はウツギ
の花盛りです。

「森の案内人」情報

●実施時間：毎週土曜・日曜・午前 10 時・午後 1 時 1～2 時間程度 (12 月 1 月 2 月休止)

●集 合：水源林入口ゲート前

●内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。

参加自由、参加費無料

*10 人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。

●問合せ：(社) かながわトラストみどり財団 TEL:045-412-2255
fax:045-412-2300

●ホームページ：http://www.ktm.or.jp

●E-mail:midori@ktm.or.jp

●やどりき水源林までの道順

小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約 25 分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩 35 分。寄大橋の右横が水源林ゲートです。

イベント情報 & ご案内



ガラスの中の山と山男
畦地梅太郎・ガラス絵展

畦地梅太郎は、木版
画の創作活動のか
たわら、多くのガラ
ス絵作品を残しま
した。

開館日：木～日・祝
5/2は開館
時間：11 時～16 時

畦地梅太郎 * ガラス絵展

会場：町田市鶴川 1-13-12 あとりえ・う
電話：042-734-8586

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。写真、スケッチなども募集しております。

送先

<①電子配信担当>

森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町 16-3-202

Tel/090-5433-7784 Fax/<株リコー・森宛 045-590-1910>

Mail: myforest@yha.att.ne.jp

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷 6-22-1-420

Tel/Fax: 045-476-4112

Mail: murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀 123

Tel/Fax: 0465-42-7240

Mai: minagold@yahoo.co.jp

【cc で】森本正信

〒194-0001

東京都町田市つくし野 2-13-7

Tel/Fax: 042-796-6011

Mail: k-inst0981@friend.ocn.ne.jp

原稿の締切は毎月 20 日です。

★編集後記★

★「避難・生死の別れ・生きる」心の傷痕は消えない。苦しみの表現は無い。自然は時として、我々に試練を与える。でも、東北は、今穏やかにこぼし咲く春を迎える。ボランティアの活躍も櫻と共に目立ち始め。”春よ来い、早く来い” (鈴木松)

★突然の(4/4)広報部長とのことで、戸惑いは有りますが、引き受けたからには NPO かながわ森林インストラクターの会発展の為に本来の精神を忘れないように皆さんの活動を支えていくつもりです。

お手柔らかにご指導願います。

(9 期 小沢章男)

★「広報の仕事のお手伝いをさせていただき事になりました 11 期の真貝です。電子配信のチェックと補佐を担当します。よろしくお願い致します。」 (真貝)

★花粉症も治まり、これからは新緑いっぱいの中を出歩くことができるのがとても楽しみです。(水口)

★震災ショック、原発ショックを引きずっているのに加えて同世代のかつてのアイドルの死。もの憂い春です。(鈴木朗)

★春の大野山を歩いてきました。エイザンスミレのピンク色が可愛い。タチツボスミレの大群落。ヤマザクラは小さな蕾、寒さにかじかんだような葉をつけ出番待ちです。一森本部長の後、2 年間広報部長を務めさせて頂きお世話になりました。同期の小沢さんとバトンタッチいたしますが、引き続き本誌は担当いたしますのでよろしくお願い致します。(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年 2000 円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から 12 回/1 年間お届け致します。

(頒 価 2000 円 送料共)

編集人：村井正孝

広報部：井出恒夫 (HP) 小沢章男

鈴木松弘 竹島 明 森 義徳

鈴木 朗 真貝 勝 水口俊則

～ 春 ～

ペンション 八ヶ岳 自然 ヒュッテ

電話：0551-47-4886

5 月のおすすめは「さわやかハイキング」です。飯盛山など清里周辺で気持ちのよいハイキングができる季節です。夏鳥たちも渡って来ます。のんびりと歩いて、心身をリフレッシュしてみませんか。GW 期間のイベントも掲載しましたので、ご覧ください。http://homepage3.nifty.com/ysh/

<7 期・竹内時男さん 経営のペンションです>